
母親失格の烙印

林 あいり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

母親失格の烙印

【Nコード】

N5661J

【作者名】

林 あいり

【あらすじ】

監護能力なし。

ごめんね。愛し方がわからない。

コクコクと迫る自殺予定日しかし体に異変が・・・。

プロローグ

自殺予定日

『ゆう』は小さいころから不精だった。

不精少女は小学生の時・・・死を考える。

不精少女は愛されていない。

「わたしが死んでも誰も悲しまない。」

ずっと、そう思っていた。

不精少女、故に片づけは一人できない。

だから、親も兄弟もそこはやってくれた。

なぜ、不精少女になったかという・・・

母親の些細ない一言だった。

「あんたがやったら明日になる。」

不精少女がお手伝いを申し出ても母は拒絶した。

多分、無意識。

父親なんてもっと最悪な人だ。

小学生の不精少女にこう言った。

「お父さんの頭の中は、^{不倫相手}ユリが99%、^{兄弟}ナオが1%、お前は0%。

^{兄弟}シヨウも0%。」

子ども心に気づつた。

それは深い深い傷。

不精少女は『ゆう』

ユリととても似た名前。

ある日、寝ぼけた父は・・・

「ユリ、リモコン取って。」

『ゆう』は驚いたが素直にリモコンを渡した。

『ユリって誰？』

子ども心に疑問がわいた。

両祖母だって酷い。^{こわい}

父方はナオが大好き。

ナオにだけ、毎年大きなぬいぐるみのプレゼント。
ナオにだけ、お小遣い。

母方はシヨウが大好き。

兄弟喧嘩をすれば、シヨウを庇う。^{かばう}

完全にシヨウが悪くても・・・

「シヨウはまだわからないんだ。」
と、言う。

確かに、『ゆう』より頭の回転が遅いけど、それくらいわかるだろう。

クリスマスプレゼントなんて桁違い。

「なんで、シヨウだけ高いの？」

「男だから。位牌持ちだから。」

いつも、そう言った。

これも多分無意識。

伯父は、知ってか知らずか・・・『ゆう』にだけ、会うたびにお小遣いをくれた。

祖母のお小遣いとは桁違いだけど・・・『ゆう』はスゴく嬉しかっ

た。

死に対する憧れは、心の奥底にあり、事あるごとに強くなる。

一応、何かに打ち込んでも・・・
苦しくなれば・・・

「どうせ死ぬし・・・。」
と、投げ出す。

死にたいくせに、すぐは死なない。
嬉しいことがあれば忘れた。一瞬。

不精少女、宿題もしない・・・。
忘れ物1位。

小学校の通信簿には・・・
「やればできる子」
と、毎年書いてあった。
でも、やらない。

ある日、思い立つ・・・。
自殺予定日を決めた。

はたち
二十歳

『二十歳の誕生日に死のう。』
『突然死がいいなく、誰にも気づかれないうようにしよう。』

ホントは死にたいのに・・・前向きを装って生活するようになる。

あの日、までは。

資格返納期限

わたしに母親の資格はない。

だって、こんなに可愛いのに…

あんなことしてしまった。

取り返しもつかない。

大きな傷。

みんなには見えない大きな傷。

陸人^{リクヒト}の怯える顔が…今でも目に焼き付いて…
毎日懺悔する。ごめんなさい。ごめんなさい。…
何度、叫んでも、リクヒトには聞こえない。
そう…。

リクヒトはわたしの声が聞こえない。

どうして？リクヒト??

ごめんね。リクヒト。

こんなことしたくなかった。

リクヒトがくれた命なのに。

ごめんなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5661j/>

母親失格の烙印

2011年10月6日13時50分発行